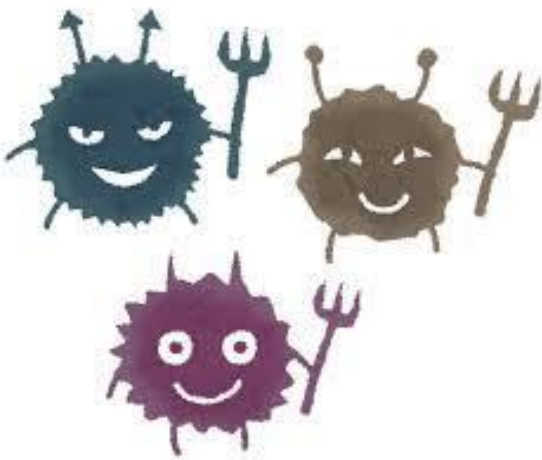


細菌検査について

みなさんは病院での検査というと、肝機能や血糖値などを調べる血液検査や心電図、尿検査などを思い浮かべるとと思います。今回は臨床検査技師の仕事のひとつである「細菌検査」についてご紹介します。

主な仕事は患者さんの熱・下痢・創部感染などの原因となる細菌を検出し、この細菌に対してたくさんの抗菌薬（抗生物質）の中から細菌を退治するための有効な抗菌薬を調べることです。抗菌薬と呼ばれるお薬ですが、細菌を退治するためのお薬なのでインフルエンザウイルスや下痢を引き起こすノロウイルスなどのウイルス感染には効果がありません。いわゆる風邪と言われる症状もほとんどがウイルス感染によるものです。



抗菌薬は軽微な症状でむやみに使用したり、決められた期間を服用しなかったり、本来重症感染症に使用すべき広域抗菌薬の多用などさまざまな原因から、近年、薬剤耐性（AMR: Antimicrobial Resistance）をもつ細菌の出現が問題となっており、そのような菌が病院内に蔓延しないよう監視する役割もしています。話が少し飛躍してしまいましたが、2013年のAMRに起因する死亡者数は全世界で低く見積もっても70万人とされていますが、何も対策を講じない場合、2050年には1000万人の死亡が想定され、がんによる死亡者数を超える可能性があるとした報告があります。このような

背景もあり、適正な抗菌薬の使用は患者さんの治療のみならず、耐性菌蔓延を防ぐためにも重要であり、その一端を担う検査として貢献したいと考えています。

最後に、流行期となったインフルエンザウイルスについてお話します。毎年この時期に流行し、今年度は例年より流行が早いようです。検査は主に鼻咽腔から綿棒で採取した後、迅速診断キットと呼ばれる検査試薬を用いることにより10分程度で結果が出ます。咳やくしゃみで飛び散ったしぶきを吸い込むことで感染（飛沫感染）してしまうため、インフルエンザに罹患した場合はできる限り他人との接触を避け安静が必要です。予防には手洗いやうがい、マスクの着用、ワクチン接種などがあります。ワクチンについては接種したからといってインフルエンザに罹らないということだけでなく、発病予防に一定効果が望め、また罹患した場合には重症化予防が期待できると言われています。



みなさん健康に留意して寒い冬を乗り越えましょう。

【中央検査部技師長補佐 三田 修道】

